

# 提言のポイント

## 1 日本のセンチネル・プロジェクトの推進

- 利用可能データの目標 **5カ年計画(1,000万人の医療情報データベース)**
- 国民、関係者の医薬品の安全対策に係る疫学研究利用への理解促進
- 医学・薬学・疫学・情報学関係者の協力
- 医薬品の安全対策の取組と医療への還元

## 2 新たなデータベースの整備・人材育成(短期～長期)

- 短期: 疫学研究倫理指針等に沿った個人情報の取扱い、運用ルールづくり
- 中期: **大規模な電子化されたデータベースの国内研究・データ拠点の整備**  
国の支援と運用の管理
- 長期: 十分な研究人材(薬剤疫学等研究者の倍増)、  
全国的な医薬品のリスク・ベネフィット等の医学・疫学研究の普及

## 3 情報の取扱いのルール(短期)

- 電子化された医療情報データベースの情報分析における個人情報に対する指針整備
- 研究の利益相反の取扱いの明確化
- 薬事における疫学研究の品質保証の基準の明確化

## 4 その他

- 情報管理の統合化も視野に入れたデータの管理の検討。
- 既存の国内の医療情報データベースの利活用の推進
- 将来的に国民ID制度等が活用できる状況になった場合の法整備等